◇現代社会と青年◇

フィリピン人女性が優勝
「第十二回くにまもり演説大会」

室舘（むろだて） 勲（いさお）
（株式会社キャリアコンサルティング 代表取締役社長）

二月十一日、建国記念の日。第十二回くにまもり演説大会が、よみうりホールにて千二百名満員の中、開催されました。「世界の手本となる国、日本。その為には、良い文化は伝え、悪くなったところは直す。国の未来は若者の質で決まる。公を考え、やさしい若者をつくる。実力者が要職に就き、誠実に働けば国はすぐに良くなる」という大会趣旨の元、二十九歳以下で競われる演説大会です。今回、エントリー数千二百九十名の中から八名が決勝の舞台に立ちました。

優勝は「日本における外国人労働者受け入れを議論する」と題し演説した、フィリピン国籍のナリオ・フェイさん。初の外国人の優勝です。今回はナリオさんの演説の一部をご紹介します。（詳細はカレント四月号「二十代の視点」にて掲載予定）

私は五歳から日本で暮らし、第二の祖国である日本が大好きです。しかし、日本企業に勤める中、私がフィリピン人であることを理由に、理不尽を被ることがありました。日本はこれから外国人労働者を受け入れていく方針の中、「賛成」か「反対」の二択の議論しかされていません。安全保障上、犯罪者を受け入れるべきでないのは当然としても、全てをゼロか百かで議論するのではなく、「どのように共生できるか」をもっと詳細に議論するべきなのではないでしょうか。日本人よりも日本のことが大好きで、良くしたいと考えている外国人はたくさんいます。私もその一人です！

と、情熱的に訴えました。大会審査員であるペマ・ギャルポ先生（四十年かけて日本国籍を取得）は、ナリオさんの演説を高く評価しつつ「理不尽な差別はあってはならないが、安全保障上、区別はあるべきだ」と自国民と外国人を適切に区別することは世界的には常識であると評されました。

令和二年現在、外国人労働者は今後さらに増える方向へ進んでいます。私も、外国人と共存する上でも、外国人労働者受け入れについてしっかりと議論し、十年、二十年先を考え抜いた法整備をすべきだと思います。

日本の国益を乱す外国人（犯罪を犯す人やスパイなど）には去っていただき、一方で優秀な外国人が日本で伸び伸びと活躍できる。そんな優秀な外国人に選んでいただける日本を目指していくことが良いと思っています。